



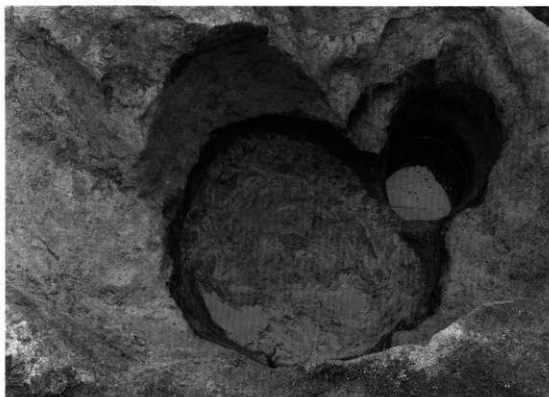
a. SD-201 完掘狀況



b. SD-201 中層遺物出土狀況



a. SK-204 発掘状況



b. SK-207 発掘状況



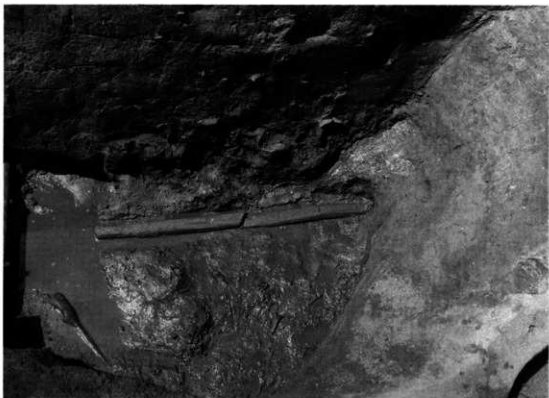
a. S K-212 上層遺物出土狀況



b. S K-205 中層遺物出土狀況



a. SK-215 中層遺物出土状況



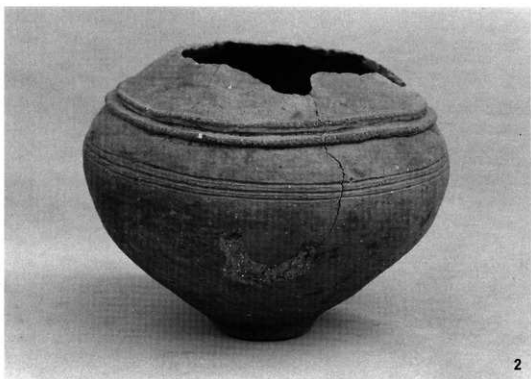
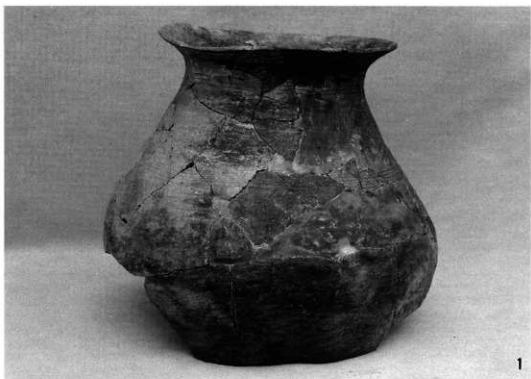
b. SK-215 下層遺物出土状況



a. SX-201 完掘状況

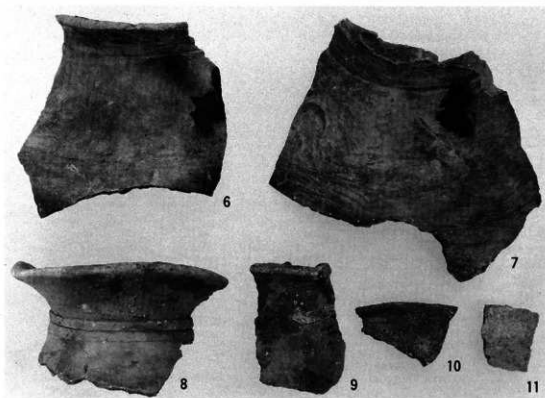
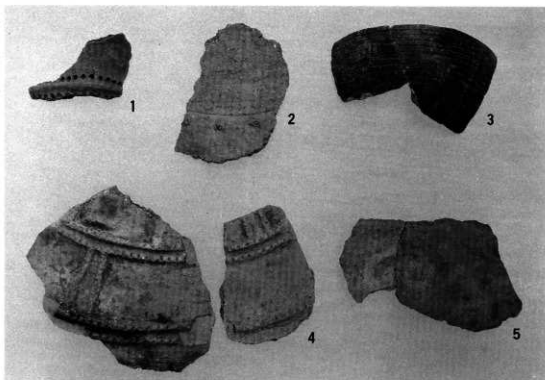


b. トレンチ南半柱穴完掘状況

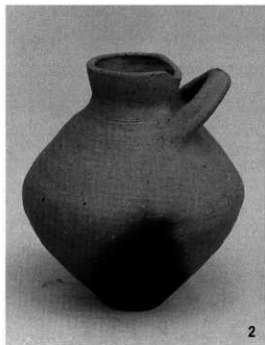
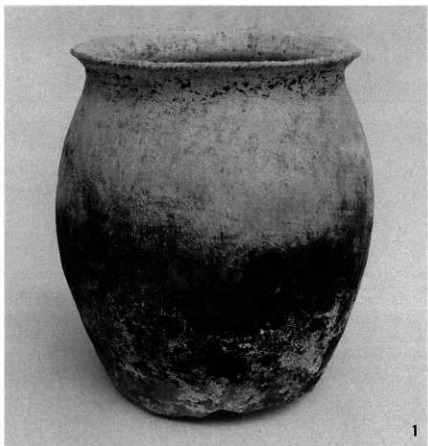


S K-215 中層出土土器 (1:½・2:½)

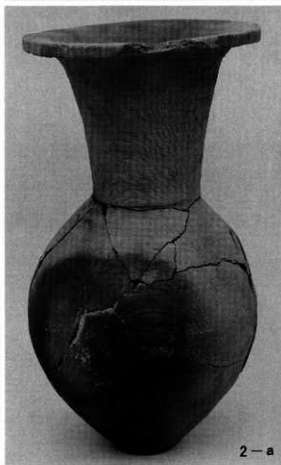




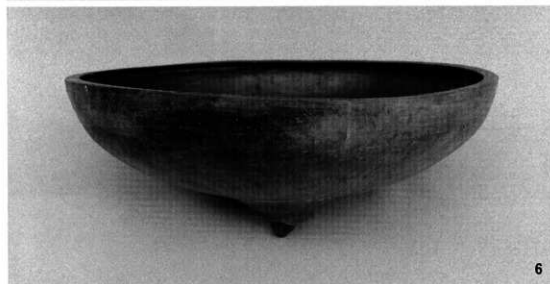
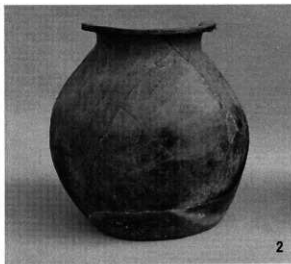
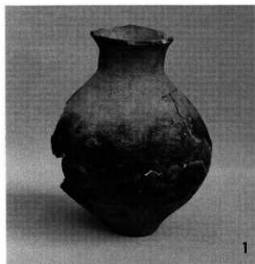
S K-215 中層出土土器 (3/4)



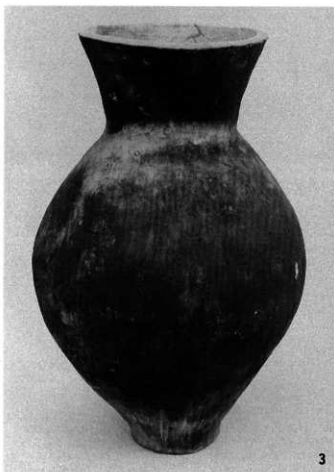
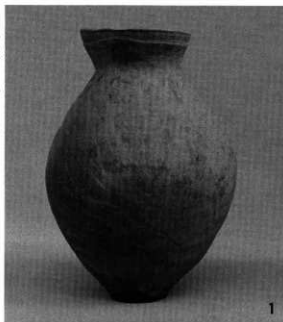
1-S X-201 出土土器(1/4)、2-S K-103 中層出土土器(1/4)、3-S K-107 下層出土土器(1/4)



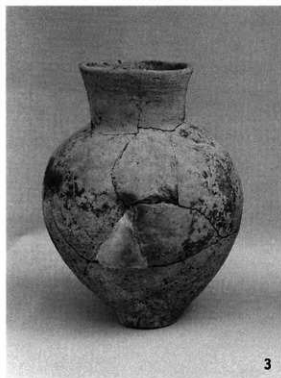
S X-101 下層出土土器
2~5 (1/4)



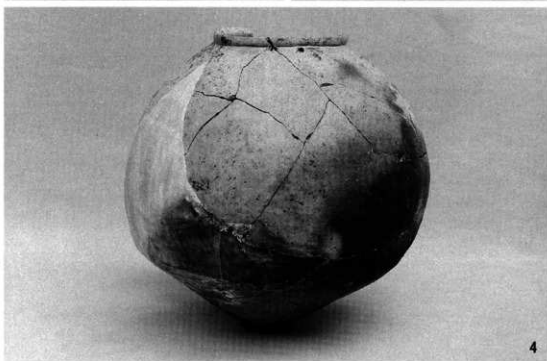
S X-101 上層出土土器
1~5 (2/4)



1, 2-SK-101 出土土器、3-SK-104 中層出土土器、4-SK-104 上層出土土器
1, 2, 4 (ㄨ)



S K-104 上層出土土器 (3/4)



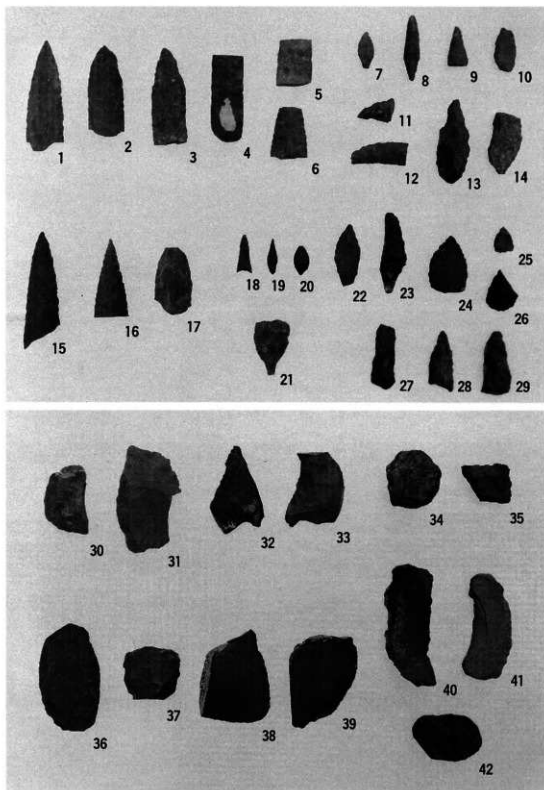
S K-104 上層出土土器 (3)



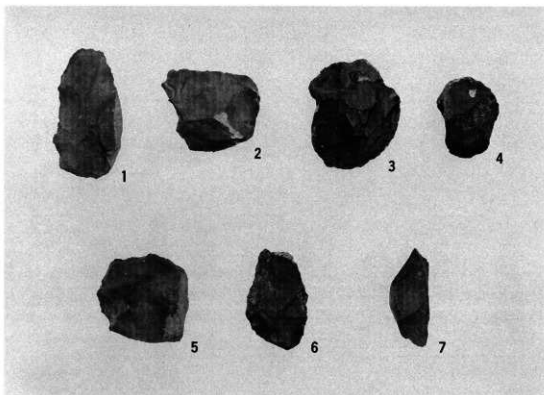
S K-104 上層出土土器 (1/4)



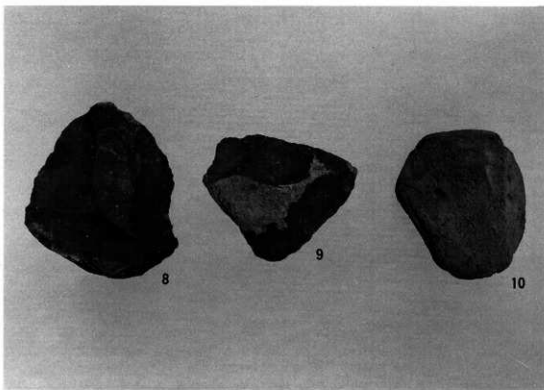
SK-104 上層出土土器 (3/4)



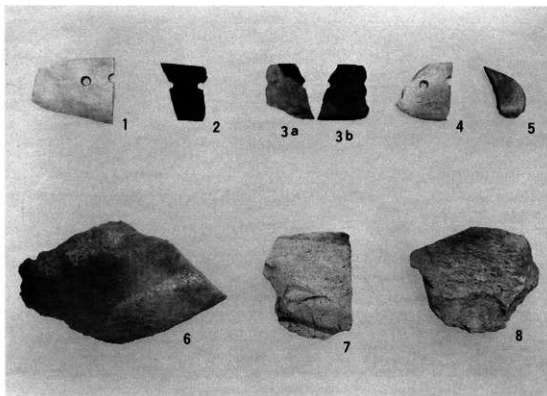
1～6, 15～17—石劍、7～10, 18～26—石鏃、11, 12—石小刀、21—石錐
 13, 14, 27～29—尖頭器、30～33, 36～41—削器、34, 35, 42—楔形石器
 1～14, 30～35. S X-101 上層出土、15～29, 36～42. S X-101 下層出土



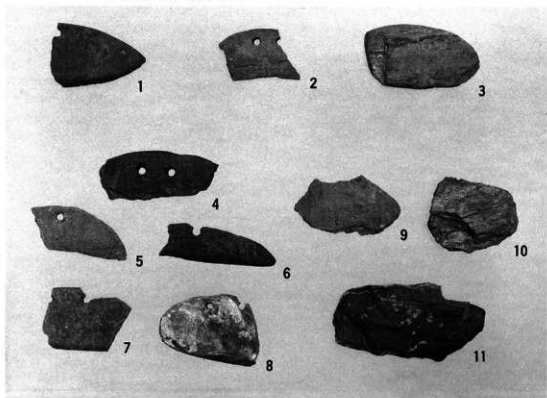
1～7—石核 1～4. SX-101 上層、5～7. SX-101 下層



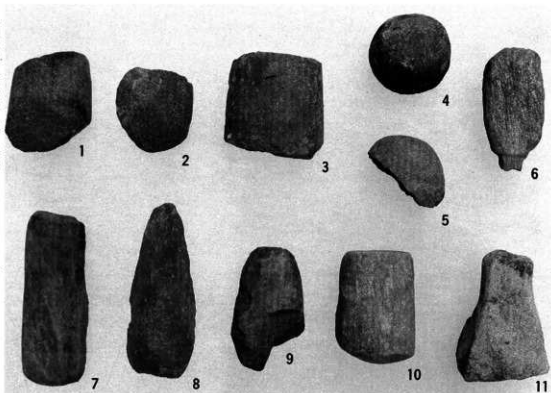
8, 9—石核、10—サヌカイト原礫 8, 9. 中世大溝、10. SD-109



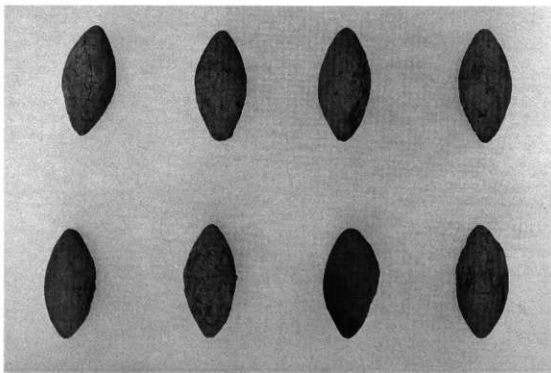
1~5—石庵丁、6—石庵丁未成品(琢磨)、7, 8—石庵丁未成品(打擊調整)
1~8. S K-215出土



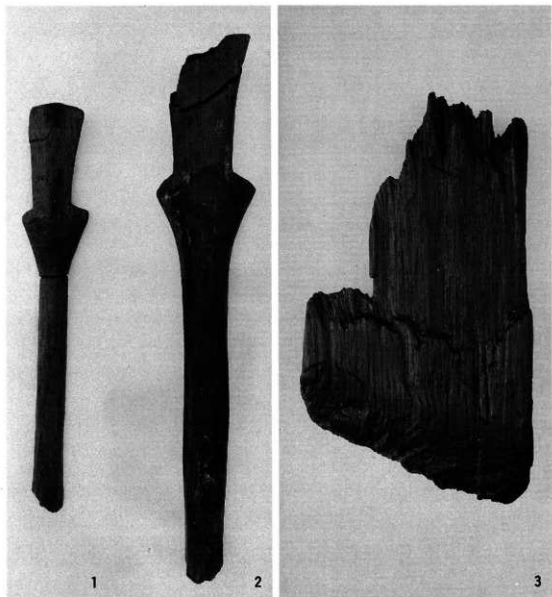
1, 2, 4~8—石庵丁、3—石庵丁未成品(琢磨)、9~11—石庵丁未成品(打擊調整)
1~3. S X-101上層出土、4~11. S X-101下層出土



1～3, 7～9—石斧、4, 5—ハンマー、6—環状石斧穿孔具、10, 11—砥石
1, 4. SX-101、2. SK-205、3, 5. 表探、6. 包含層中層、7, 10. SK-107、
8. SD-07、9. SK-206、11. 中世大溝

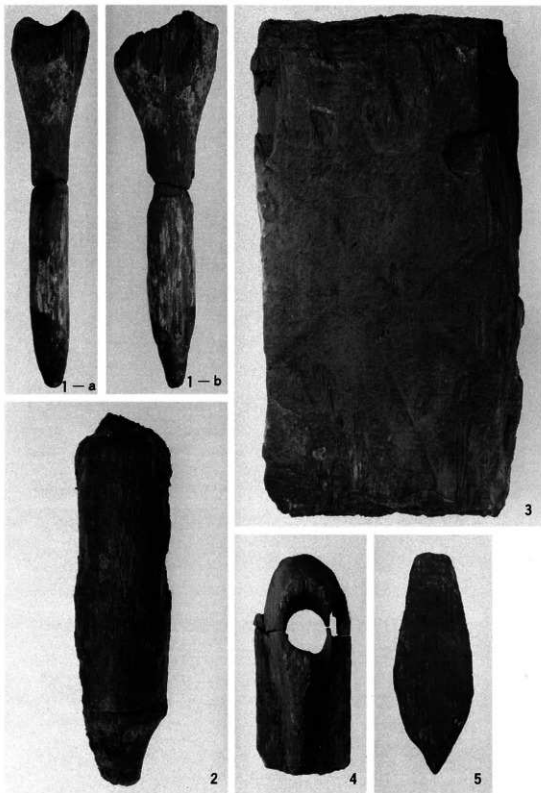


SK-215 出土土製投弾

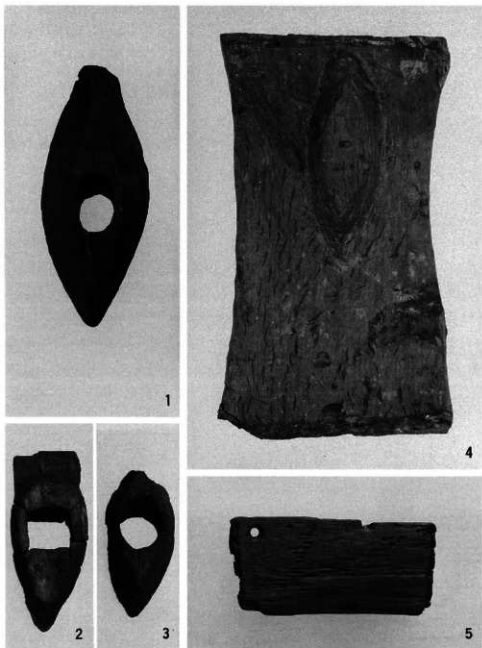


1, 2—斧柄、3—建築材

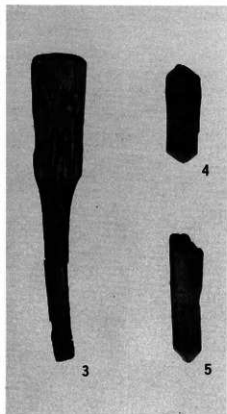
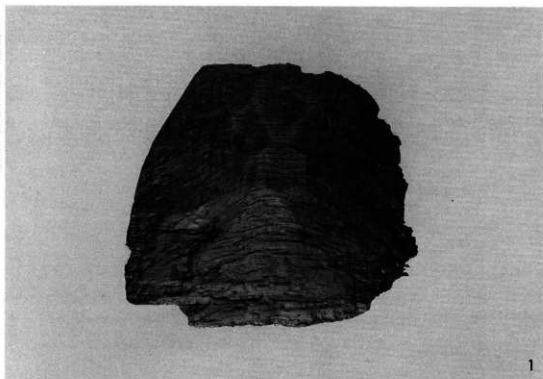
1, 2. SK-215 最下層出土 3. SK-215 中層出土



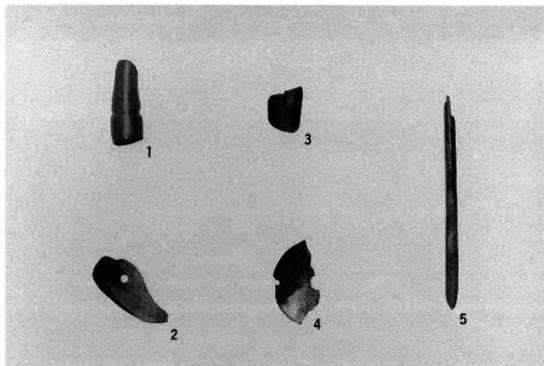
1—斧柄、2—整件、3—原材、4—平斨、5—斨未成品
1, 3. SK-205 最下層出土、2. SK-205 中層出土、
4. SK-213 上層出土、5. SK-213 中層出土



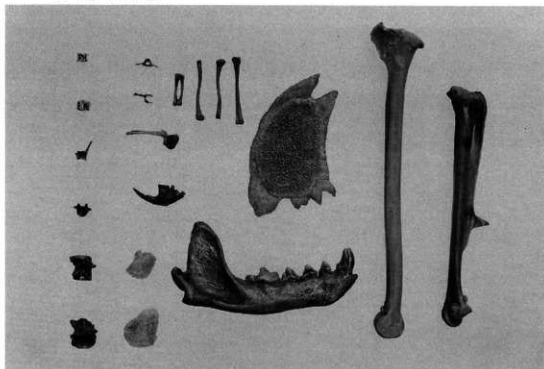
1～3—平鍛、4—平鍛未成品、5—板材
1, 4, 5. SD-201 出土、2. SK-207 出土
3. SK-215 出土



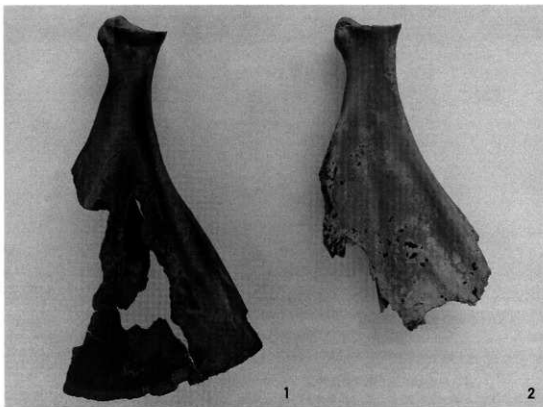
1—丸墩未成品、2—手斧柄、3—槍、4、5—用途不明品
1, 2. SK-107 出土、3~5. SX-101 出土



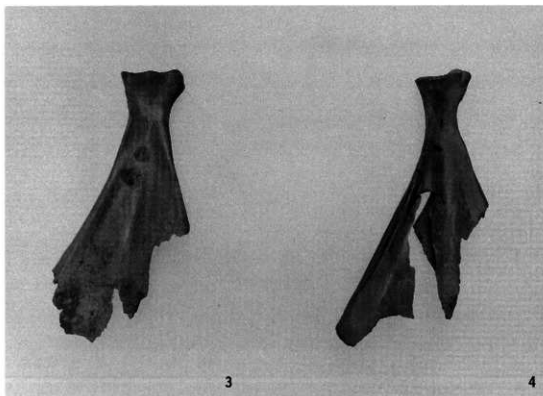
1—弾形角製品 2—猪牙製垂飾品 3, 5—用途不明品 4—鹿角製紡錘車
1. SK-205 出土 2. SK-207 出土 3. SK-215 出土 4. SX-101 出土
5. SD-201 出土



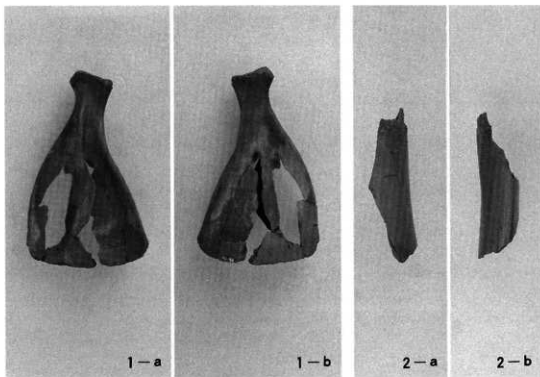
魚骨・カエル・スッポン他小動物骨



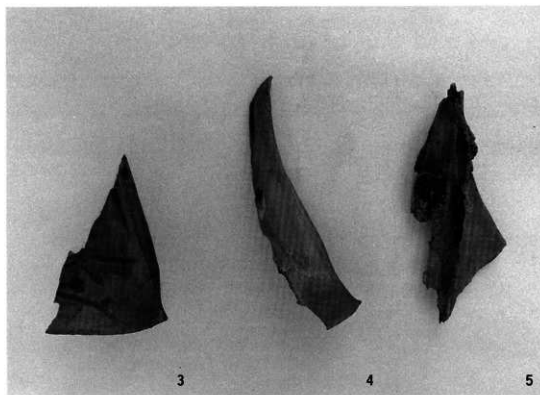
1, 2 - ト骨 (SX-101 出土)



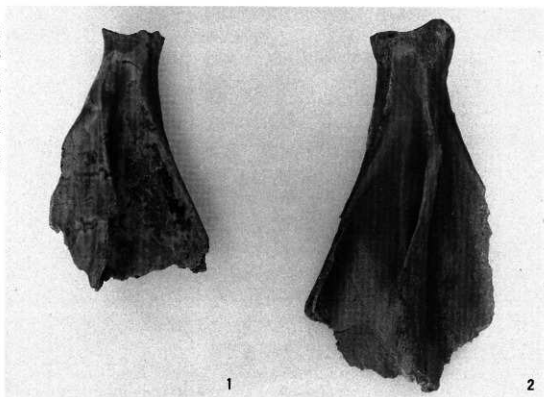
3, 4 - ト骨 (SX-101 出土)



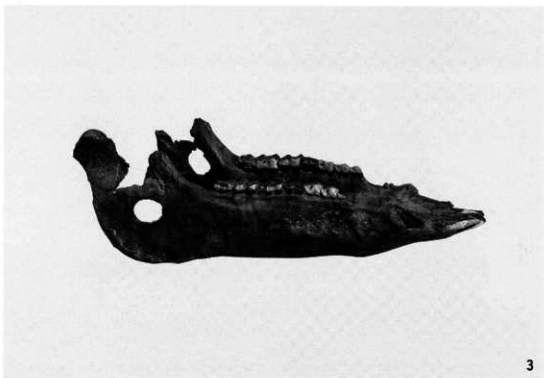
1, 2-ト骨 1. SK-107 出土 2. SD-201 出土



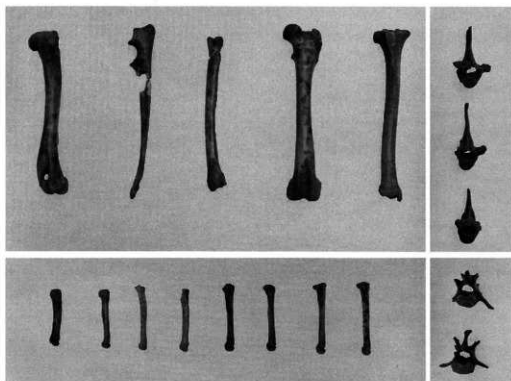
3, 4, 5-ト骨 (SX-101 出土)



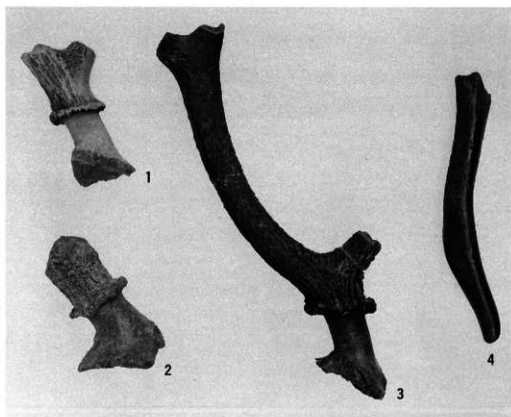
1, 2-イノシシ肩甲骨 (SD-201 出土)



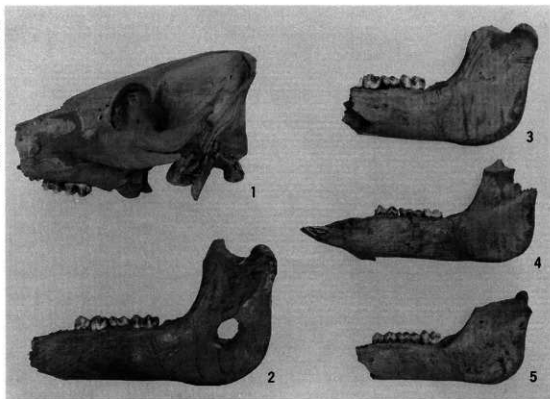
3. 穿孔を有するイノシシ下顎骨 (SK-104 出土)



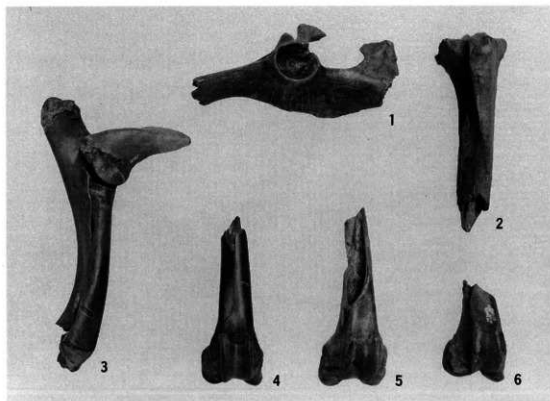
S X-101 出土 大四肢骨各種



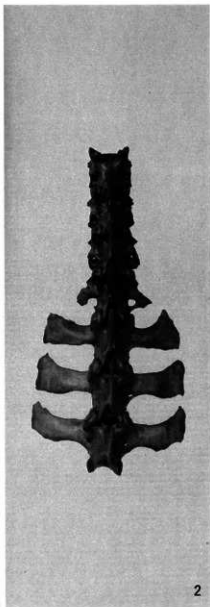
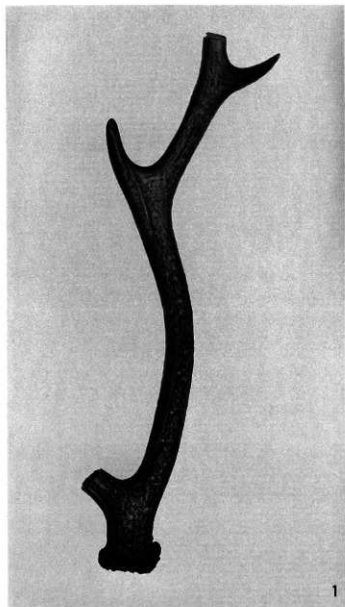
1~3-鹿角、4-鹿角製ハンマー
1. S K-213 出土、2、4. S X-101 出土
3. S K-215 出土



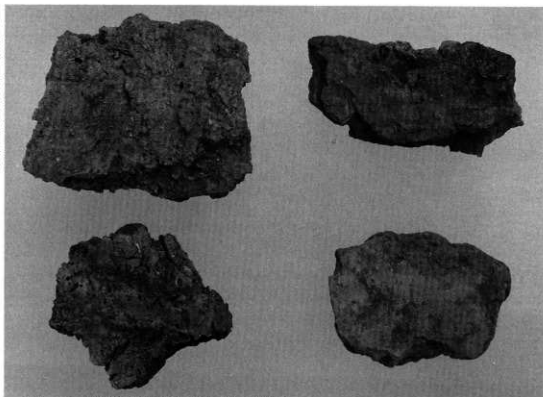
1～5. イノシシ頭骨・下顎骨(SK-205 出土) 2. 穿孔を有する下顎骨



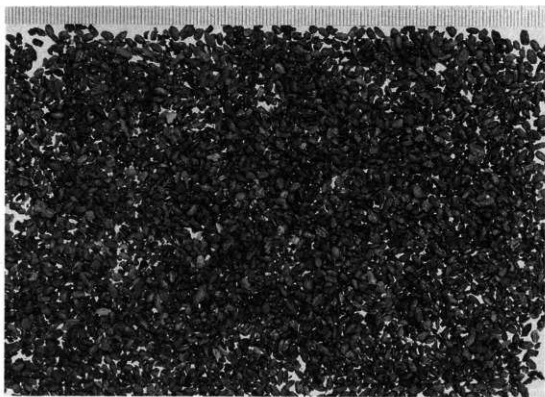
イノシシ大腿骨他(SK-205 出土)



1-鹿角、2-イノシシ胸椎 (SK-205 出土)



S K-215 出土焼土塊及び籾圧痕を有する焼土塊



S K-215 出土炭化米

昭和59年度

黒田大塚古墳

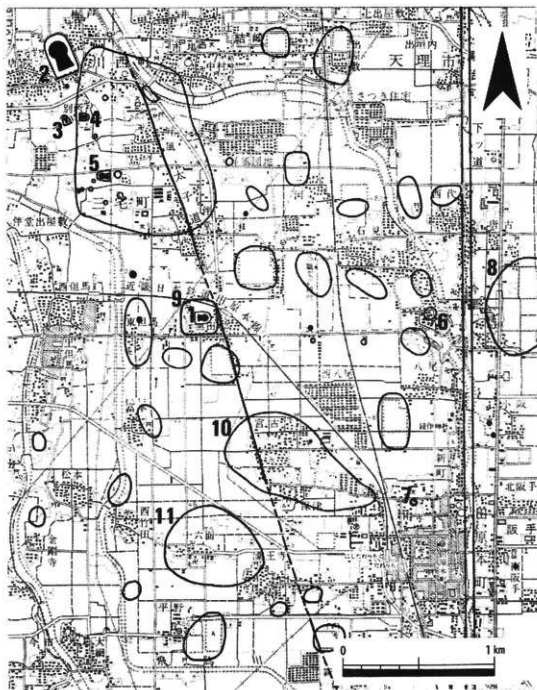
第2次発掘調査概報

例 言

1. 本書は田原本町教育委員会が昭和59年度国庫補助事業として実施した奈良県磯城郡田原本町大字黒田所在、黒田大塚古墳の発掘調査概報である。
2. 発掘調査は橿原考古学研究所の指導を得、現地調査は田原本町教育委員会がおこなった。
3. 調査補助ならびに整理、概報作製にあたっては、豊岡卓之（現 橿原考古学研究所）、桑原久男（京都大学）、加田隆志・前川浩一（奈良大学）の諸氏に協力して戴いた。
4. 調査にあたっては下記の方々より御教示、御協力を賜った。記して感謝します。
橿原考古学研究所 泉森校、菅谷文則、河上邦彦、関川尚功の諸氏。
5. 本概報の執筆、編集は藤田三郎があたった。

本 文 目 次

I. はじめに	2
II. 調査の概要	
(1). 第1トレンチ	3
(2). 第2トレンチ	3
(3). 第3トレンチ	3
(4). 出土遺物	4
III. まとめ	6



- | | | |
|-----------|-----------|---------------|
| 1. 黒田大塚古墳 | 5. 高山古墳 | 9. 黒田遺跡・法楽寺跡 |
| 2. 島ノ山古墳 | 6. 石見遺跡 | 10. 保津・宮古遺跡 |
| 3. 寺ノ前古墳 | 7. 羽子田遺跡 | 11. 十六面・薬王寺遺跡 |
| 4. 安養院古墳 | 8. 唐古・鎌遺跡 | |

第1図 黒田大塚古墳周辺遺跡分布図

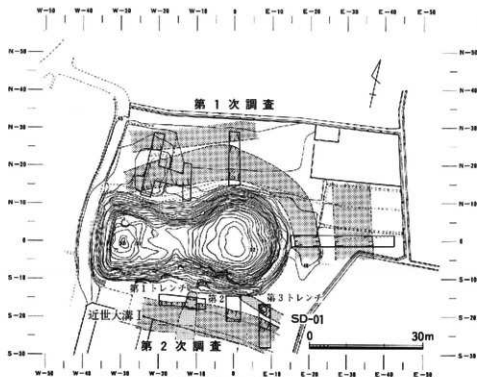
I. はじめに

黒田大塚古墳の調査も二年目をむかえた。本墳は従前、盆地内では最も墳丘の残存状況の良い古墳として認識されていたにもかかわらず、昭和58年度におこなった調査では、墳丘一段目が削平されていることが知られた。この調査は墳丘北側の5ヵ所にトレンチを設けたもので、幅約8mにおよぶ周濠を確認したが、中・近世の大溝によって大きく削平を受けており、残存状況は極めて悪かった。墳丘は5～6m除去されており、現状より一まわり規模が大きくなる古墳であることが判明した。

さて、本年度におこなった調査は墳丘南側部分で、3ヵ所のトレンチを設けた。調査は墳丘の南側が通行路として使用されているため、良好なトレンチ設定ができず、十分な成果をあげることができなかった。しかし、本調査においても中・近世の大溝を検出し、古墳との関係を考える上で重要な調査となった。

II. 調査の概要

調査は前にも述べたとおり、墳丘南側の3ヵ所においてトレンチ調査をおこなった。調査の目的として、1. 造り出しの確認、2. 墳丘基底部の確認、3. 中・近世大溝の確認の3点において。なお、埋め戻しにあたっては墳丘面に山砂を敷き、墳丘面の保存をはかった。



第2図 近世大溝検出位置図

(1). 第1トレンチ

古墳南側のくびれ部に設定した東西13m、南北4mのトレンチである。調査当初4×5mのトレンチであったが、なお、くびれ部が良好に検出できなかったため、トレンチを東西の両側に約4m拡張した。その結果、墳丘面は削平されており、さらに、近世の大溝によって相当変形を受けていることが判明した。近世の大溝は東西方向に1条(近世大溝Ⅰ)、さらにこの溝を切るように南北方向の幅3mの溝を検出した。この南北溝はくびれ部のやや後円部側に位置しており、造り出し部分を意識して掘削された可能性がある。

墳丘については削平が大規模におこなわれている為、旧状を知ることはできない。しかし、近世の大溝が墳丘の形状を意識して掘削されていることから、造り出しを有していた可能性が高い。

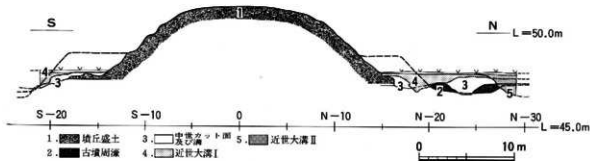
(2). 第2トレンチ

後円部南側で墳丘主軸線に直角に設定した幅4m、長さ7mのトレンチである。このトレンチでは、中世の削平面及び小溝と近世大溝Ⅰを検出した。近世大溝Ⅰは北側の肩部のみで規模は不明である。深さは1.4m以上有する。中世の小溝は幅0.3m程のもので、墳丘をカットした後、つくられている。墳丘の基底部については検出していない。

(3). 第3トレンチ

第2トレンチの東側4mに並行して設定したトレンチである。長さ12mを計るが、トレンチ南端は昭和40年頃まで堀として残っていた部分を検出した為、調査範囲はこの堀までとした。調査では近世の大溝2条と古墳周濠を確認した。近世大溝Ⅰは第1、第2トレンチで検出した溝と同一溝と思われるもので、北肩のみ検出した。幅3.5m以上、深さ約2mを測る。溝内は灰色粘土で埋没しており、溝中位より漆碗が出土している。

他の近世大溝(SD-01)は後円部にむかって走向する溝である。溝幅約4m、深さ約1.5mを測る。トレンチ北端で溝は取束するものと思われる。溝の終結部分は他の溝底より約0.2m深く掘削しており、深み部分をつくっている。溝底よりやや浮いた状態で、曲物などの木製品が出土した。本溝の性格は不明。



第3図 後円部墳丘南北断面図(W-スライン)(S=3/6)

古墳周溝は第2次調査において初めて検出した。しかし、近世大溝ⅠやSD-01溝などによって破壊されている為、周溝は約3mの範囲しか残っていなかった。周溝内の堆積は約0.4mで濠底は平坦である。周溝の堆積は黒灰色粘土や灰色粘土で、自然木や埴輪片が多く出土した。周溝の堆積土を覆うように奈良から平安時代にかけての堆積土層がみられた。したがって、古墳の原状は奈良から平安時代まで留めていたと思われるが、その後、大規模な墳丘の削平がおこなわれたと考えられる。

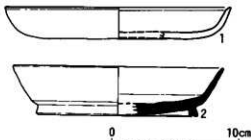
(4) 出土遺物

今回の調査で検出した遺物は遺物箱で約13箱である。大半が円筒埴輪の破片で、この古墳に伴う土器類は検出してない。他は近世大溝などに伴う遺物である。また、中世の削平に伴う堆積では瓦器碗、土師皿などが出土しているがその量は少ない。

円筒埴輪は無黒斑で須恵質・埴質の両者が存在している。形象埴輪として蓋形埴輪があるが、他の器形については定かでない。

土師器・須恵器 (第4図)

1は口径17.8cmをはかる土師皿である。口縁部は外方へ鋭く突出する。口縁部はヨコナデ、体部にはミガキがみられる。2は須恵器杯身である。口径16.6cmを測る。口縁部は直線的に外方へ広がる。高台はやや外側につく。1・2ともに第3トレンチ古墳周溝の上層(灰色粘土層)より出土した。



第4図 第3トレンチ出土土器 (S=埴)

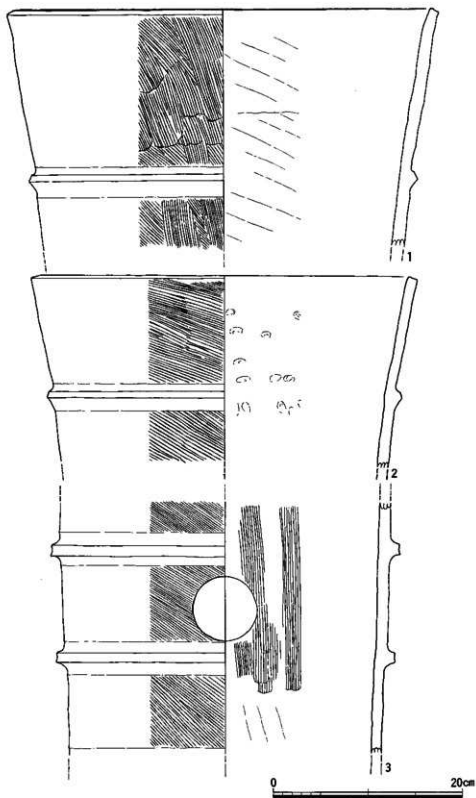
蓋形埴輪 (図版4-1)

第3トレンチのSD-01上層より出土した蓋形埴輪

輪である。上部に付く十字形の飾を失なうが、本体は一部を除きほぼ全容のしれる蓋形埴輪である。蓋部は粗いハケを施しているが、他は明瞭なナデ痕を残す。上部の円筒部には貼り付け突帯を一条めぐらす。器高45.8cm、上部径16.7cm、底径20.3cmを測る。

円筒埴輪 (第5図、図版4-2)

第5図1~3は第3トレンチの古墳周溝より検出した円筒埴輪である。全容を知り得るものはないが、口縁部や底部の破片が含まれている。1・2は口縁部径約45cmを測る大形品である。外面は1はタテハケ、2・3はナナメハケの一次調整がみられる。内面はナデ調整が施されるが、3にはハケ調整が残る。タガは大きく高く突出する。いずれも、第3トレンチの古墳周溝の下層(暗灰褐色粘土層)より出土した。

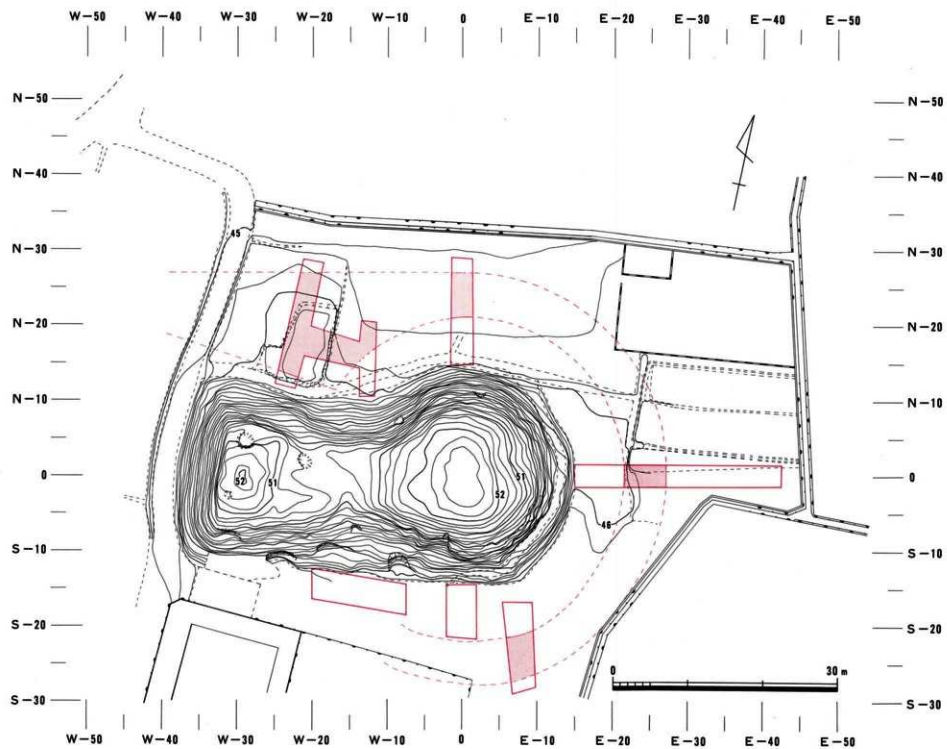


第5圖 古墳周濠出土城輪 (S=1/4)

Ⅲ. まとめ

黒田大塚古墳の調査は昨年度に引き続き、2年次目である。第1次調査では古墳の周濠と削平され一まわり小さくなった墳丘、さらに墳丘をとりまくようにめぐる中・近世の大溝を検出した。遺物では古墳周濠より鳥形木製品、かき形木製品など注目されるものが出土し、多大な成果をあげた。

第2次調査では古墳の南側3カ所のトレンチで周濠の確認を目的としておこなった。その結果、くびれ部の第1トレンチでは断定はできないが、造り出しと思われる張り出し部を検出した。また、後円部の第3トレンチにおいては古墳の基底部と周濠を確認した。しかし、周濠の幅は数年前まで存在していた深（用水路）によって切られていたため確定できなかった。古墳関係の遺構はこのようなもので残存状況が極めて悪いものであった。これは中・近世の削平によるもので、各トレンチで中・近世の溝を検出した。この中で特に注目されるものとして第3トレンチで検出した近世初頭の溝（SD-01）がある。この溝は後円部に向かう溝で、墳丘を何らかの形で利用したものであろう。本調査地の東側でおこなった昭和57年度の公民館建設に伴う調査ではこの溝の延長部分で集水施設を検出している。このようなことから屋敷地の一部に引き込む溝と思われ、古墳を借景として利用している可能性があるだろう。以上のように、黒田大塚古墳は外見上、墳丘が良好に残っている古墳のように思われているが、調査においては中世・近世の削平が激しくおこなわれている。にもかかわらず、墳丘が現在のように留めているのは墳丘をうまく土地利用した結果であろう。今後、古墳と古墳周辺の調査をおこない、土地利用の変遷をおさえていく必要があるだろう。



第6図 黒田大塚古墳墳丘測量図及びトレンチ配置図 (S=1/500)

黒田大塚古墳
図 版



a. 第1トレンチ くびれ部完掘状況



b. 第2トレンチ 中世遺構完掘状況

a. 近世大溝遺物出土状況



図版2
第3トレンチ

b. 古墳周溝遺物出土状況(手前)





a. 蓋形埴輪出土状況（近世大溝）



b. 古埴輪濫完掘状況



1. 蓋形埴輪 (近世大溝)、2. 円筒埴輪 (古墳周濠)

田原本町埋蔵文化財調査概要 3

—昭和59年度唐古・鍵遺跡第20次発掘

調査概報 黒田大塚古墳第2次発掘

調査概報—

昭和61年3月31日

発行 田原本町教育委員会

印刷 関西美術印刷株式会社

